

県民の「まなび」拠点，徳島県立総合大学校

生涯学習課 学習情報担当

I はじめに

現代社会は、高度情報化やグローバル化の進展など急激に変化している。その変化によって生じる様々な課題に対応していくために、また社会の成熟化に伴い、幅広い年齢の人々に学ぶことへの意欲が高まってきている。さらに、学歴社会の弊害を是正していくという点から、「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学習することができ、その成果が適切に評価される」ような生涯学習社会の体制づくりが望まれている。徳島県でも、県民の生涯学習の拠点となるべく、「徳島県立総合大学校“まなびーあ徳島”（以後「総合大学校」とする。）」が平成20年6月に開校された。（図1）県民のニーズや社会的要請に応え、誰もが利用しやすい学習情報を提供し、生きがいと社会参加につながる総合的な学習支援体制づくりを推進している。



【図1 徳島県立総合大学校開校式】

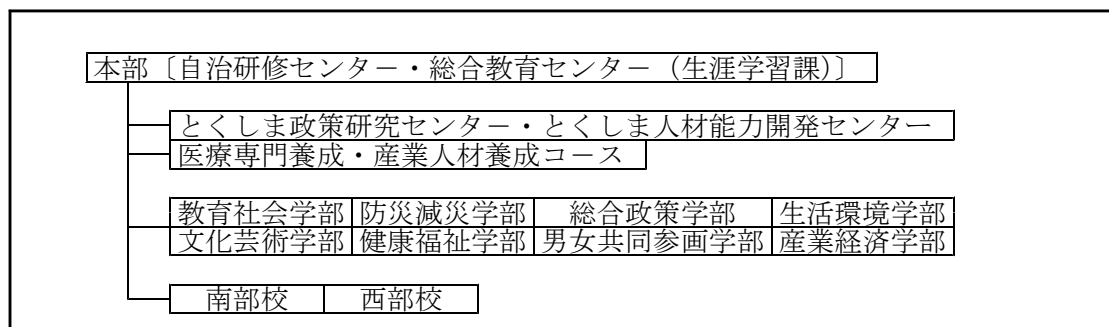
II 総合大学校の概要

1 創設の背景

総合大学校は、県の専門学校並びにシルバー大学校，及び消費者大学校など，学習機関や講座としてこれまで個別に運営をしていたものを，横断的に連携・充実させ，ワンストップサービスで情報提供を行うことで，学習内容の総合化や，利用者の利便性の向上を図り，様々な学習ニーズに対応することを目的に創設された。

2 組織

総合大学校は、自治研修センター及び総合教育センターを本部とし、とくしま政策研究センター及びとくしま人材能力開発センター並びに2つの専門コース及び8学部並びに南部校及び西部校から構成されている。（図2・図3）



【図2 総合大学校組織図（平成25年度）】

校 長	知事		
副 校 長	教育長		
本 部 長	(専任)	教育社会学部長	副教育長
企画研修部長	自治研修センター所長	防災減災学部長	危機管理部副部長
総合教育部長	総合教育センター所長	総合政策学部長	政策創造部副部長
南部校校長	南部総合県民局企画振興部長	生活環境学部長	県民環境部副部長
西部校校長	西部総合県民局企画振興部長	文化芸術学部長	文化スポーツ立県局長
副 本 部 長	(専任) (事務局長兼任)	健康福祉学部長	保健福祉部副部長
副事務局長	総合教育センター生涯学習課長	男女共同参画学部長	保健福祉部副部長
		産業経済学部長	農林水産部副部長

【図3 総合大学校の組織体制】

3 目的

(1) 県民のニーズに対応した学習機会の充実を図ること

県民の様々な情報提供のニーズや学習ニーズが多様化・専門化していることから、県立の専門学校や県の各部局、各機関が行っている県民向け各講座・セミナー等について、ワンストップで情報を提供するサービスをはじめ、全ての利用者の利便性の向上を図る仕組みを再構築し、学習機会のさらなる充実を図っている。

(2) 本県の発展を担う人材を創造すること

社会経済情勢の変化が進む中、これからの地域社会を支え、21世紀を担う人材の創造を図るため、県や市町村をはじめ、NPO 法人及び民間企業等が保有する人材、ソフト、ハードを最大限活用し、県民のみなさまが生涯にわたって学ぶことのできる質の高い多様な学習機会を広く地域社会に提供する仕組みを整備している。

(3) 政策支援機能の充実を図ること

地方分権新時代を迎え、地域間競争がさらに激化すると考えられる中、基礎自治体としての市町村における政策立案能力の向上とともに、今まで以上に地域に関わる政策研究の充実などを図り、積極的な施策提案、提言によって本県の課題解決はもとより、徳島からの提言が日本の標準（ジャパンスターダート）となるよう政策研究を進めている。

4 機能

(1) 人材育成支援機能

医療専門養成コースや産業人材養成コースなどによる資格や技術の修得を目的としたキャリアアップや人材の育成支援のほか、本部事務局に総合窓口を設置し、県民の皆様への総合的な学習情報の提供などワンストップサービスによる利便性の向上に努めている。

(2) 生涯学習推進機能

本部、南部校、西部校及び8つの学部で各種の主催講座を実施するほか、主催講座をインターネットで配信している。また、県民の皆様が県の施設を利用して、講座を自主的に

運営する県民参加型自主講座の開催や、県職員などの人材活用による自主講座を実施している。

(3) 人材活用機能

自治体職員や公募による講師を登録するなど、まなびーあ人材バンクにより県内各地で開催される講座や教育機関に講師を派遣するなど、地域貢献を推進している。また、NPO法人の人材やノウハウを生かす協働講座の開催など、まなびーあ徳島が県民に親しみ、愛される「まなびや」となるよう努めている。

(4) 政策支援機能

とくしま政策研究センターでは、県及び市町村における政策立案能力の向上及び地域の課題解決能力の向上を図るため、調査研究、支援活動、政策提言などを行っている。

(5) 情報集積・発信機能

多様化、専門化した情報提供のニーズに応えられるよう、ICTを有効活用するとともに、ワンストップで情報を提供している。また、ポスター・チラシ・講座一覧などの紙媒体による広報など誰にでもわかりやすい情報の発信に努めている。

5 本部の役割

県職員や市町村職員の研修や県民向けの公開講座を実施している自治研修センターと、これまでの「県民カレッジ」を実施するなど生涯学習の拠点としての機能やノウハウを有する県立総合教育センターに本部を設置することにより、利便性の向上を図っている。

(1) 共通の役割

総合大学校の管理・運営と総合調整及び本部主催講座の企画運営を行うこと。

(2) 総合教育センターの役割

市町村や教育関係機関等の連携機関との連絡調整、学習情報の提供、学習の奨励に関する事務を行うこと。

(3) 自治研修センターの役割

県の機関が実施する講座及びコースについての連絡・調整並びに人材登録システムの運営及び政策提言や運営協議会に関する事務を行うこと。

Ⅲ 総合大学校の講座

1 講座の種類

総合大学校の講座には、県が主催する主催講座と、市町村や高等教育機関、民間教育機関等が実施する連携講座がある。

2 主催講座の内容

主催講座には、「オンリーワンとくしま学講座」をはじめとした徳島県政、県民ニーズ、地

域の特性及び社会の風潮等に対応した本部主催講座、「寄り合い防災講座」をはじめとした危機管理，防災教育，建築技術等に関する防災減災学部の講座等がある。（図4・図5）

学部等	講座内容
本部	徳島県の県政，生涯学習等に関する講座
教育社会学部	教育・生涯学習等に関する講座
防災減災学部	危機管理，防災教育，建築技術等に関する講座
総合政策学部	政策創造，地方自治，ICT等に関する講座
生活環境学部	くらしや環境，NPO等に関する講座
文化芸術学部	文化芸術関係等に関する講座
健康福祉学部	健康福祉等に関する講座
男女共同参画学部	男女共同参画社会の実現等に関する講座
産業経済学部	経済，商工業及び農林水産業等に関する講座
南部校・西部校	圏域の特性を生かした講座

【図4 各学部等の講座の内容】

年度	講座数	受講者数
20	1,036	96,427
21	1,205	52,341
22	1,205	53,895
23	1,452	69,260
24	1,217	72,066

【図5 主催講座数と受講者数】

3 本部（県立総合教育センター生涯学習課）主催講座

(1) 「オンリーワンとくしま学講座」

徳島の文化・自然・くらし・人物等に関する地域に密着した学習を通して、「ふるさと徳島」のすばらしさを再発見したり，県民のいきいきとした生活を支援したりするための講座で，前・後期合わせて18回実施している。

（図6）内容については，徳島県政の指針「いけるよ！徳島行動計画」や，社会の風潮や県民のニーズを鑑みたテーマをもとに，県下で活躍される方々に講義をしていただいている。平成25年度については，「第6次産業」，「男女共同参画」，「南海トラフ巨大地震対策」等について受講者は学びを深めた。



【図6 講座の様子】

(2) 「地域未来学講座」

徳島の現状を認識し，これからの徳島の地域の活性化や未来に向けた特色ある地域づくりへの取り組みを考え，地域のリーダーとなり，徳島の未来を切り拓くことのできる人材を養成する講座である。（図7）この講座は，前半（午前）は，担当している講師から，様々な

課題等についてのレクチャーを受け、徳島やその地域がどのような状況にあるかを把握するところから始まる。そして、後半（午後）は、午前の講師からのレクチャーを踏まえ、グループに分かれ、ワークショップ形式で各自意見を出し合い、徳島やその地域の課題を解決するための方策や、これからの徳島が進むべき方向について協議をする。最後に、課題への対策案を作成して相互に発表し、皆が幸せに暮らすことのできる、徳島の将来像に向けた具体的な取組等を考え、今後の地域のリーダーとしての活動につなげていくようになっている。



【図7 ワークショップの様子】

4 連携講座の内容

連携講座に関しては、市町村や高等教育機関、民間教育機関等の様々な教育機関が、それぞれの特徴を生かした講座があり、あらゆるジャンルのものを取り入れている。例えば、地域の実態に深く学ぶ講座や、専門的な技能を習得する講座、趣味を生かした講座等がある。（図8）

年 度	連携機関数	講 座 数
20	62	1,611
21	63	2,109
22	64	2,400
23	66	2,591
24	67	2,667

【図8 連携機関数と講座数】

5 講座の広報

講座の広報に関しては、県が運営する主催講座をはじめ、県内の連携機関が運営する連携講座の情報をまとめた講座一覧表（図9）や広報用チラシを配布している。また、総合大学校や徳島県のホームページ、ケーブルテレビ等の広報媒体を活用し、県民に対して講座の広報を行っている。

※講座一覧表については、年に3回（3月・6月・10月）、各回8,000冊作成し、県内約380か所に配布している。

【参考】

まなびーあ徳島：<http://manabia.tokushima-ec.ed.jp>

まなびひろば：<http://syougai.tokushima-ec.ed.jp>

携 帯 電 話：<http://mobile.tokushima-ec.ed.jp>

（→「4まなびーあ徳島」をクリック）



【図9 講座一覧表】

IV 総合大学校の奨励制度

1 目的

総合大学校に入学し、生涯学びを積み重ね、所定の単位を修得した方々に対し、その努力を讃えるとともに、本県の生涯学習推進者として活躍していただくことを目的としている。

2 概要

各講座毎に設定した単位数に応じて、受講者に「単位認定シール」配布し、そのシールを貼付する「学びの手帳」により受講実績を確認する。所定の単位を修得した受講者に対する奨励制度として、次の3種類を設けている。

(1) 「とくしま学博士」

「とくしま学博士」は、「とくしま学博士認定試験」に合格すると、校長より認定される。(図10)つまり、学問やその道の知識が豊富で詳しい人の意味の「博士」として位置づけるもので、学校教育法に規定されている大学院を修了した者等に授与される「博士」ではない。平成25年度末現在の認定者は40名である。

(2) 「学部エキスパート」

「学部エキスパート」は、それぞれの学部で主催する講座について、原則として200単位以上を修得した者に授与される。

(3) 「奨励証」(県民カレッジから継続)

・奨励内容

100単位 まなびーあ賞

200単位 すだち賞

300単位 やまもも賞

400単位 しらさぎ賞

500単位 総合大学校賞

501単位以上は500単位毎に特別賞を授与している。

○ 平成25年度の奨励賞交付式・記念講演

・期 日 11月1日(金) 10:00~12:00

・場 所 県立総合教育センター ホール

・参加者 300名

・記念講演(図11)

講師 横浜DeNAベイスターズ野球振興部 地域貢献グループ

畠山 準

演題 「私と野球」

・奨励賞受賞者数 合計 605名

(内訳)

名 称	内 訳	受賞者数
とくしま学博士 (4名)		4名
学部エキスパート (134名)	教育社会学部	1名
	防災減災学部	1名
	総合政策学部	77名
	文化芸術学部	1名
	健康福祉学部	54名
奨 励 証 (467名)	100単位(まなびーあ賞)	421名
	200単位(すだち賞)	10名
	300単位(やまもも賞)	7名
	400単位(しらさぎ賞)	9名
	500単位(総合大学校賞)	6名
	1000単位特別賞	4名
	1500単位特別賞	3名
	2500単位特別賞	4名
	3000単位特別賞	1名
	4000単位特別賞	1名
	5500単位特別賞	1名



【図10 とくしま学博士の認定証授与】



【図11 島山 準 氏の記念講演】

・過去の記念講演の講師

平成20年度	河野 匡 (大塚製薬陸上競技部監督)
平成21年度	竹宮 恵子 (京都精華大学マンガ学部長 現学長)
平成22年度	小島 章司 (フラメンコ舞踏家)
平成23年度	弘山 晴美 (元長距離オリンピック選手)
平成24年度	住友 紀人 (音楽家, サックス・EWI奏者)

V 総合大学の放送・ネット活用講座

1 概要

県民の生涯学習に関する利便性の向上や、学習機会の充実を図るため、総合大学校主催講座等の様子を撮影してデジタルコンテンツ化している。そのデジタルコンテンツを「まなびーあ徳島デジタルアーカイブ」にて保存・管理し、総合大学校ホームページ内のインターネット放送局で無料配信している。公開しているデジタルコンテンツ数は、平成24年度末で198講座である。

2 デジタルコンテンツの内容

徳島の文化、くらし、人物等に関する総合大学校本部主催講座である「オンリーワンとくしま学講座」をはじめ、その内容については防災、歴史、健康等多岐にわたっている。(図12)

カテゴリー	数量	カテゴリー	数量
防災	35	LED	5
歴史	26	藍染め	4
健康	18	阿波踊り	4
徳島県	12	地域振興	4
人物	12	宇宙	3
中国語	10	映画	3
とくしま学博士	10	料理	3
自然・環境	11	情報	3
生物	8	その他	20
生命・医学・医療・薬学	7		

【図12 デジタルコンテンツの内容について】

3 インターネット放送局

インターネット放送局は、総合大学校の主催講座の「放送・ネット活用講座」に属している。講座を視聴して所定の往復はがきに感想等の必要事項を記入し、本部事務局に申請すれば、1講座につき1単位修得できる。(図13)

4 防災生涯学習コース

「南海トラフ巨大地震」等を迎え撃ち、発災時の死者ゼロを目指すためには、県民の防災意識の更なる向上と平常時からの実践的な備えが不可欠である。このため、県民の誰もが生涯にわたっていつでも防災について学べるよう、講座情報や講座コンテンツを案内している。(図14)



【図13・14 総合大学のホームページ】

5 インターネットを視聴できない県民への対応

インターネットを視聴できない県民に対しては、総合教育センター内のマナビセンターにて、「DVD」、「Blu-ray Disc（ブルーレイディスク）」、「VHS」の貸出を無料で行っており、学びの機会を提供している。

VI 「とくしま学博士」

1 「とくしま学」とは

徳島に関する自然、文化、地理、歴史、ICT、健康、福祉などの広範な分野について、県民一人ひとりが、「まなび」を通して「とくしま」の地域に根ざした専門的な知識や郷土に関する理解を深めていく、様々な「まなび」の総称としている。

2 背景

総合大学校の講座を受講された県民の方々を対象とした「とくしま学博士制度」を設け、学習意欲をさらに喚起するとともに、地域における生涯学習のリーダー、講師等として社会貢献できるよう支援するなど、幅広く人材活用をすることを目的に、平成21年度に新しく奨励賞制度に新設されたものである。

3 とくしま学博士とは

総合大学校での学びを通じて、とくしま学について探究し、講師等となって地域社会に貢献する意欲のある方が、「とくしま学博士認定試験」に合格すると、「とくしま学博士」として大学長より認定される。つまり、学問（とくしま学）やその道の知識が豊富で詳しい人の意味の「博士」として位置づけるもので、学校教育法に規定されている大学院を修了した者等に授与される「博士」ではない。

4 認定試験

(1) 応募資格

地域社会に貢献する意欲があり、次のいずれかの要件を満たした方が「とくしま学博士認定試験」に応募できる。

- ・受験申込日において、総合大学校の単位を500単位以上修得している者（とくしま県民カレッジの単位を含む）。
- ・受験申込日において、総合大学校の単位を300単位以上修得している者（とくしま県民カレッジの単位を含む）で、かつ、学部エキスパートに認定された者、または、当該年度の学部エキスパートに申請中で、認定される見込みの者。

(2) 認定試験

- ・論文試験（1, 200字以上～2, 000字以内）
- ・面接試験（短時間の模擬講義を含む）

5 「とくしま学博士」の活動の機会

総合大学校では、認定された「とくしま学博士」の個々の特性に応じて、次の活動等を依頼

し、とくしま学博士の地域社会に貢献する活動を支援している。

- ・人材登録システムへの登録
- ・主催講座等への講師等としての参加（図15）
- ・県民参加型自主講座の開催
- ・総合大学校のホームページに、「とくしま学博士の紹介や研究・活動報告」掲載。等

6 認定者数

平成21年度	11名
平成22年度	11名
平成23年度	9名
平成24年度	5名
平成25年度	4名
合計	40名



【図15 とくしま学博士による論文発表】

VII これからの課題

- 1 県民の総合大学校自体への認知度を更に高めるため、講座開催ごとに徳島県のホームページをはじめ、あらゆる広報媒体を活用し、積極的に広報活動に努めていく。
- 2 講座では、講師やテーマにより受講者の人数が左右されることがある。講座内容も広報手段の一つと考え、県民のニーズに応えるとともに、様々な角度から県政の行動計画に沿うような人材の確保に努める。
- 3 「とくしま学博士」や「学部エキスパート」として認定された人々が、学んだ専門的知識や技術を生かすことのできる体制づくりを考える。
- 4 本部主催の人材養成に関する講座の内容を充実させ、地域での活動の場を見据えた講座が実施できるように努めていく。
- 5 再編された学部の特性を鑑み、新しい学部への県民の意識付けを図ることができるような講座の内容を考える。

VIII おわりに

徳島県では県政運営指針「いけるよ！徳島 オンリーワン徳島行動計画」の中でも、「まなびの邦・育みとくしま」の実現を基本目標に掲げているように、県民の皆様が「新しい公共」の担い手として、生涯学習の成果を地域社会に還元できる体制づくりを目指し、より一層総合大学校の運営の充実・強化を図っている。これからも、県民の学びの拠点として、より一層の組織の拡充に努め、生涯を通じた学びの支援をしていきたい。